

【学校関係者評価（平成 29 年度）】

1. 全体まとめ

- ・“あけぼの”の原点を振り返り、同僚と保育について語る場をもてるよう努力した。
- ・子育て中の職員も仕事がしやすい環境作りのための仕事の見直しを積極的に行った。
- ・園内の環境変化に伴って、安全確保と遊びの充実を図った。更なる展開を期待する。

2. 項目別評価

項目	取組方法
(職員の) 専門性の向上	・担任の打合せや事務仕事に集中できる時間、保育について語る時間を保護者にも協力を求め確保したことで、保育について語る機会が増えた。また、園内研修を定期的に取り入れたことで「あけぼのが大切にしていること」の再確認ができ、あけぼのの保育について漠然としていた部分も考え方が明確になり、保育にも生かされている姿が見られるようになった。
仕事の見直し	・専門性の向上でも上げた時間の確保、保護者への手紙配布方法の見直し（ウェブ化）など、時間の使い方も含めて見直しを行った。その結果、職員が早い時間に仕事を終え帰宅する姿が見られた。今後については仕事の質を同じ時間でどの程度高められるかについて突き詰めていただきたい。
職員の処遇・研修	・勤務形態（働き方）に関係なく、働く職員がそれぞれの役割を理解し、責任を持って園運営の一端を担う意識を持てるように、短時間パート職員でも打ち合わせに入り意識を高めた。また、職員間の業務分担もあけぼので働く職員全員に役割をつけることで、短時間職員も自覚を持ちはじめられるようになった。
地域との関わり	・様々な工事に伴い、職員 1 人 1 人の地域への関わり大切さを年度初めに伝えたことで職員全員が挨拶等意識を持っていた。そういった職員の対応もあってか、工事に伴う苦情はなかった。地域の中に位置づく大切な施設として、今後も地域とのかかわりを積極的に持つよう心がけていただきたい。